

平成十八年度 総会報告

四国の川を考える会事務局

平成十八年度の総会を六月十九日、高松市において、会員百八十八名のうち六十三名が出席、百六名の委任状をもって開催しました。

四国の川を考える会 平成十八年度総会次第

一、開会
一、会長挨拶
一、来賓挨拶
一、議事
1. 平成十七年度事業報告
2. 平成十七年度決算報告及び監査報告
3. 平成十八年度事業計画(案)及び予算(案)
4. 役員の変更
一、閉会
一、講演
演題『町おこし、夢だせ、知恵出せ、力だせ』
町おこしグループ「やったろう21」
会長 住友 隆氏

1. 平成十七年度事業報告

(1) 会議

① 運営幹事会

開催日／平成十七年七月十五日(金)
場所／高松市 四国建設弘済会

議題／役員会・総会開催について

その他

開催日／平成十八年三月二十四日(金)
場所／高松市 四国建設弘済会
議題／平成十八年度助成事業について

その他

② 役員会

開催日／平成十七年八月九日(火)
場所／高松市 四国建設弘済会
議題／平成十七年度総会について

入会承認
その他

③ 総会

開催日／平成十七年八月二十九日(月)
場所／高松市 オークラホテル高松
議題／平成十六年度事業報告
平成十六年度決算報告及び監査報告
平成十七年度事業計画(案)及び予算(案)
役員の変更
会則の改正

(2) 広報誌、機関紙の発行

① 広報誌『あめんぼ』No. 35

発行 平成十七年八月 五万六千部制作
四国のオピニオンリーダーに配布
特集 川の文学散歩(2)
「人生を映す清流 四万十川」

② 機関紙『水紋』Vol. 24

発行 平成十七年十二月 千百部制作
四国の川を考える会会員全員に配布
(3) 広報事業と助成事業

(3) 広報事業と助成事業

区分	イベント名	河川名	場所	主催者	実施状況
事業報	第23回ファミリーハゼ釣り大会	吉野川	名田橋～吉野川河口一帯	主催：徳島県釣連盟、 四国の川を考える会	平成17年10月9日(日) 485名参加
助成	人間と水との関わり合いに関する実施体験	—	禎瑞小学校	愛媛大学児童文化研究会	平成17年8月9日(火・10日水) 20名参加
	若者が考える未来の四万十川「四万十川目安箱」	四万十川	四万十川流域県立高校7校	四万十川流域住民ネットワーク	平成17年6月～7月・8月～10月 1,500名参加
事業	那賀川源流碑建立式典	那賀川	徳島県那賀町	那賀川アフターフォーラム	平成17年10月29日(土) 110名参加
業	観察会ならびに調査会	香東川 鴨部川	香東川:塩江町上西 鴨部川:さぬき市 造田宮西	香川県淡水魚研究会	観察会:鴨部川3回 調査会:8回 104名参加
	重信川クリーン大作戦	重信川	重信川河口左岸 森松河川敷 拝志大橋左岸付近	重信川の自然をはぐむ会 重信川エコリーダ	平成17年11月19日(土) 300名参加
	波しと峠を結ぶ阿讃への道写真展	吉野川	美馬市(パルシー) 徳島市(シビックセンター)	吉野川渡し研究会 阿波の峠を歩く会	平成18年1月20日(金) ～22日(日)・2月17日(金) ～19日(日)2,002名参加

(4) その他

講演

『川の話・山の話・人の話』

四国河川文化ネットワーク
代表世話人 西内燦夫氏

2. 平成十七年度決算報告及び監査報告

(1) 決算報告

(自平成十七年六月一日・至平成十八年三月三十一日)

(2) 監査報告

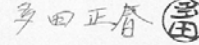
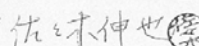
(2)監査報告

平成17年度監査報告

「四国の川を考える会」会則第11条4項の規定により、監査を執行したので報告する。

記

監査執行日 平成18年4月20日
 監査内容 平成17年度本会経理状況
 意見 本会会計に係わる収入及び支出の状況並びに各帳簿書類は正確であり、金銭残高については、貯金通帳と合致していることを認める。

監事 香川県河川協会 
 電源開発株式会社西日本支店 

(1)決算報告 (収入・支出)

(単位：円)

項目	予算額	決算額	内訳
収入			
前期繰越	413,221	413,221	
特別会費	3,500,000	3,500,000	20,000×12社 2,420,000 20,000×1社×2年 40,000 40,000×1社(2口) 40,000 50,000×10社 500,000 500,000×1社 500,000
一般会費	54,000	57,000	1,000×51人 51,000 2,000×3人 6,000
事業収入	1,000,000	1,097,400	あめんぼ代事務所等 1,097,400
雑収入	132,779	126,020	総会費 126,000 受取利息 20
合計	5,100,000	5,193,641	
支出			
機関紙発行費	900,000	908,250	水紋24号 908,250
広報活動費	2,678,000	2,562,000	
広報誌発行費	1,700,000	1,694,000	(四国建設弘済会と共同製作) あめんぼ35号 1,694,000
広報費	378,000	378,000	ホームページサーバ管理 378,000
広報事業費	100,000	100,000	第23回ファミリーハゼ釣り大会 100,000
助成事業費	450,000	390,000	養蚕が考える未来の四万十川 50,000 渡しと絆を結ぶ阿讃への道写真展 80,000 観覧券をらびに生物調査 70,000 重信川クリーン大作戦 20,000 人間と水との関わり合いに関する実地体験 70,000 那賀川源流碑建立式典 100,000
その他	50,000	0	
会議費	400,000	354,035	オークラホテル高松 349,700 お茶 4,335
事務費	350,000	241,995	旅費目録等 112,920 旅費簿 85,580 コピー 28,856 手紙料 12,035 タクシー 2,560 領収証 144
次期繰越	772,000	1,127,361	
合計	5,100,000	5,193,641	

(1)-③・④広報事業と助成事業(案)

区分	イベント名	河川名	場所	主催	開催日
事業	ファミリーハゼ釣り大会	吉野川	名田橋～吉野川河口一帯	徳島県釣連盟・四国の川を考える会	平成18年10月9日(日)
助成	筑後川(筑後次郎)吉野川(四国三郎)兄弟縁組交際展	吉野川	徳島県三好市・美馬市・徳島市	吉野川渡し研究会・吉野川交流推進会議	三好市8月・美馬市9月・徳島市10月
	3001年の森づくり事業	吉野川	高知県土佐郡大川村	NPO法人新町川を守る会	平成18年4月
事業	那賀川源流まつり	那賀川	阿南市富岡町(富岡商店街)	那賀川アフターフォーラム	平成18年7月
	水域調査ならびにオオクチバス・ブルーギルの防除	鴨部川水系	さぬき市造田地区	香川淡水魚研究会	平成18年4月～12月(毎月1回程度)
	土器川生物公園魚類調査および清掃	土器川	土器川河川敷	土器川生物研究会	1回目:7月～8月 2回目:12月～1月
事業	重信川クリーン大作戦	重信川	重信川流域	重信側の自然を育む会・重信川エコーダー	平成18年5月・7月・11月
	高校生の考える「未来の四万十川」	四万十川	四万十川及び釧路川	四万十川流域住民ネットワーク	平成18年8月
	サマースクール	肱川	三善小学校	児童文化研究会	平成18年8月8日～10日
事業	ゴミのない、いのち育む物部川	物部川	物部川流域	NPO法人エコネットなんごく	年4回くらいアースデーから始め、流域で活動している他の団体と協働していく

- (2) 予算(案)
- ① 機関紙・広報誌の発行
 機関紙「水紋」及び広報誌「あめんぼ」を発行する。
- ② ホームページによる情報発信を行う。
- ③ 広報事業として「吉野川ファミリーハゼ釣り大会」を行う。
- ④ 助成事業として九件の助成を行う。
- ⑤ シンポジウム等への参加の目的にあったものに参加する。
3. 平成十八年度事業計画(案)及び予算(案)

(2)予算(案)

(単位：円)

費目	収入	支出	備考
前期繰越	1,127,361		
特別会費	3,400,000		20,000×118社、40,000×1社、50,000×10社、500,000×1社
一般会費	54,000		1,000×54
事業収入	1,000,000		「あめんぼ」代事務所等
雑収入	118,639		総会費その他
機関紙発行費		900,000	「水紋」25号発行
広報活動費		2,678,000	
広報誌発行費		1,700,000	「あめんぼ」36号発行(四国建設弘済会と共同製作)
広報費		378,000	サーバ管理
広報事業費		100,000	ファミリーハゼ釣り大会(徳島県釣連盟と共催)
助成事業費		450,000	9件の助成
その他		50,000	シンボ等参加費
会議費		400,000	総会等
事務費		350,000	
予備費		1,372,000	
合計	5,700,000	5,700,000	

4. 役員の変更

幹事	理事	顧問	副会長	会長	役員								
佐々木伸也	多田正春	川田通	兼松直彦	末澤孝文	森澤孝文	森寛昭	公文治夫	武井糸	岡部健士	井下俊作	三井宏	石破弘道	鈴木幸一
電源開発(株)西日本支店支店長代理	香川県河川協会事務局	(財)河川情報センター高松センター所長	高知県土木協会事務局長	四国電力(株)水力部総括グループリーダー	四国治水期成同盟連合会幹事長	(社)四国建設弘済会理事	佐藤工業(株)四国支店	水をきれいにする会代表	徳島大学大学院教授	四国大学短期大学部教授	徳島大学名誉教授	(株)四電技術コンサルタント常務取締役	愛媛大学工学部教授

● 運営幹事

運営幹事名	
末澤 等	四国電力(株)水力部総括グループリーダー
山川健藏	(社)四国建設弘済会 副理事長
佐々木伸也	電源開発(株)西日本支店 支店長代理
山下祥弘	独立行政法人水資源機構吉野川局施設管理課長
田村寛司	香川県土木部 河川砂防課長
公文治夫	佐藤工業(株)四国支店
五藤隆彦	四国地方整備局河川部 河川情報管理官

● 参与

参与名	
山本秀樹	徳島県土木整備部 河川課長
田村寛司	香川県土木部 河川砂防課長
八塚眞喜雄	愛媛県土木部 河川課長
長谷部和英	高知県土木部 河川防災課長
五藤隆彦	四国地方整備局河川部 河川情報管理官

新役員から一言

■ 理事・運営幹事

四国電力(株)電力輸送本部水力部 末澤 等
総括グループリーダー

この度、砂田さんの後任として、理事・運営幹事を務めさせて頂くこととなりました。

私にとって川(河)という事で頭に浮かんでくる言葉は、「濫觴」と「南水北調」です。

まず、「濫觴」ですが、「濫」は「あふれる」の意であり、「觴」は「杯」の意。つまり、揚子江(長江)のような大河でも、その源は杯(觴)に溢れるほどのささやかな水であるということから、「物事の始まり。起源」を意味するものであります。

次に、「南水北調」ですが、良くご存知の方も多いと思いますが、一九五二年に中国の毛沢東が構想を発表して以来、五十年の歳月をかけて調査・研究を行い、長江の上・中・下流から各々取水し、西北地区と華北地区の各地に引水する西線、中央線、東線の三つの引水線路です。総予算額は六兆五千

億円にも及び、平成十四年十二月に着工され、現在鋭意工事中の中国西部開発の目玉プロジェクトです。流石に、中国はスケールが大きいですね。

四国の川(河)は中国の揚子江と比べると非常に小さいですが、このような大きな思いを馳せながら、務めさせて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

■ 幹事

香川県河川協会事務局 多田 正春
一昨年は多数の台風や豪雨により、洪水や高潮の被害を受けました。また、昨年は早明浦ダムの貯水が、二度にわたり貯水率ゼロとなる大渇水となりました。

比較的災害の少ないと言われてきた香川県ですが、最近の地球規模で気象状況が変化していると言われていたことを痛感しています。

本県の河川整備は十分とは言えませんが、厳しい財政状況の中、美しいふるさとの川づくりの推進に努めて参りたいと思います。

■ 運営幹事

四国地方整備局河川情報管理官 五藤 隆彦

今年の四月より河川情報管理官に着任し、この考える会の運営幹事を務めさせて頂くこととなりました。

今年に入ってから幸い四国では大きな災害での被害が出ていないものの、七月の豪雨で西日本各地で大きな洪水・土砂災害が発生していますし、四国でも一昨年の洪水・土砂災害、昨年の渇水と治水・利水面の課題が近年表面化してきている状況にあります。

その一方で四国内の河川はその河川ごとに土地の歴史・風土と密着し、それぞれに魅力のある河川環境をもっており、それが美しい四国の魅力の一つであることも事実です。これからの四国の川がいかにあるべきか、皆様と一緒に考えてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 参与

徳島県土木整備部 河川課長 山本 秀樹

(趣味/ヘボ碁、ウオーキング)

先日は「四国の川を考える会」の総会では、これまで河川関係の仕事でお世話になった方々と久しぶりにお会いでき有意義でした。

私は、これまでダムや堰をはじめとする水資源

関係を通じて河川と関わってきました。徳島県では、洪水と渇水の両面で大変な苦労をしてきた経緯があります。特に、一昨年は吉野川で戦後最大の洪水に見舞われたかと思えば、一転して、昨年は吉野川や那賀川で過去最大の渇水となり、本県の置かれた厳しい状況を改めて実感しました。

治水事業を巡る予算は厳しい状況ですが、本県の河川整備はまだ不十分ですので、ハード・ソフト両面で工夫しながら、よりよい川づくりに努めてまいりたいと考えております。

■ 参与

高知県土木部 河川防災課長 長谷部 和英

高知県は、毎年のように豪雨による被害を被っています。特に、平成十六年は、四国に六個の台風が上陸し、本県も大きな被害を受けました。

また、最近、局所集中型の降雨が多い反面、降雨の少ない年もあり、渇水がたびたび発生し、昨年は、鏡ダム等で取水制限を行いました。

さらには、今世紀前半にもその発生が懸念されている東南海・南海地震には多くの県民が津波被害等の不安を感じています。

一方、河川は、身近に存在する自然空間として、その豊かで美しい自然環境を保全・再生していくことを求められています。

財政状況の厳しい中ではありますが、これらの課題を解決するために、事業の効率化・重点化を行い、できる限りの対応に努めてまいりたいと考えています。